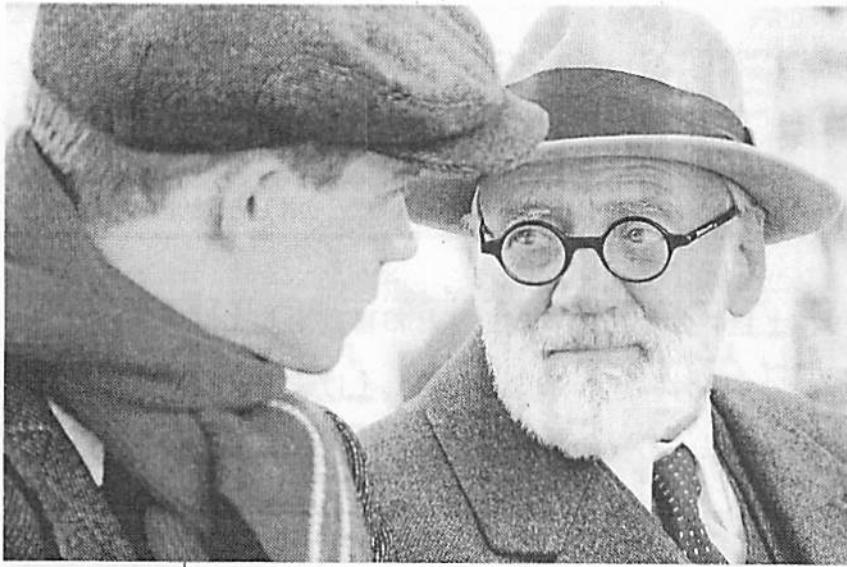


大戦前夜 世代超えた男の友情

「17歳のウイーン」

フロイト教授 人生のレッスン



ナチス・ドイツの台頭に揺れる第2次大戦前夜のウイーン。激動の世界に放り込まれた若者が見たものは、「17歳のウイーン」フロイト教授「人生のレッスン」は、世代を超えた奇跡の出会いと友情の物語。ドイツでロングセラーを記録した人気小説の映画化だ。

1937年。オーストリアの田舎で暮らしていた17歳のフランツ（ジモン・モルツエ）が、知人のたばこ店で働

「17歳のウイーン」フロイト教授 人生のレッスン」の一場面

青年の成長、初恋も詩情豊かに

くためウイーンに来る。ある日、有名な精神科医フロイト教授（ブルーノ・ガンツ）が店に現れる。フランツは教授と懇意になり、人生のアドバイスを受ける。そんなウブな若者がボヘミア出身の娘に一目ぼれする。

ウイーン出身の作家ローベルト・ゼーターラーが著した原作小説の「キオスク」は、2012年に出版され、ドイツで50万部以上売り上げた。

「これは若者の成長映画で初恋のドラマ。しかし何より、男同士の友情の物語」とニコラウス・ライトナー監督は語る。

ヒトラー率いるナチスが勢力を拡大、抵抗むなくオーストリアがドイツに併合された1930年代。時代の荒波を体感する若者の成長を、フオートジェニックな映像美で鮮

烈に描く。

主な舞台は第1次大戦で片脚を失ったオットーが営む街角のたばこ屋。実に味わい深いセットで、店がキャラクターの役割を果たしている。

初めての恋に戸惑うフランツに、もっと人生を楽しみ、恋をするよう助言するフロイト。自らの病と世情にふさぎ込んでいたユダヤ人教授の心も晴れていく。

精神分析学の創始者として名高いフロイトが、映画で描かれるのは珍しい。この物語で唯一の実在人物。今は亡き名優ブルーノ・ガンツが、滋味あふれる演技で作品にリアリティーを与える。

けれん味のない詩情と悲劇性。「原作の雰囲気そのまま映像に」とのライトナー監督の配慮が行き届いている。

◇1時間53分。シネ・リーブル神戸で31日から公開。

誰もが何度か聞いたことのあるフロイト博士。この機会に復習してみませんか？